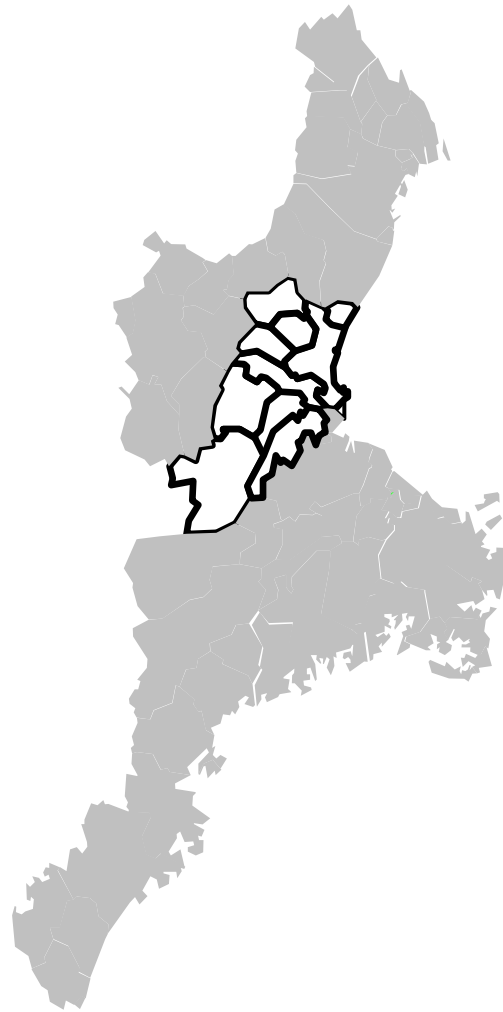


(参考)まちづくり基本構想策定委員会で検討されている案

まちづくり基本構想(中間案)

<基本理念図>

ハートのまちづくり ~日本のまん中、三重の県都、心の通う30万の中核都市~



(1) 基本理念

ハートのまちづくり

～日本のまん中、三重の県都 心の通う30万の中核都市～

津・久居・安芸郡・一志都市町村合併問題協議会を構成する市町村の圏域は、日本と三重県のまん中に位置しており、豊かな自然、温暖な気候に恵まれ、県都であることから、教育、医療、文化などの施設にも恵まれ、多くの住民が健康で心豊かに静かな環境で暮らしていける地域であります。

この環境を、将来も守っていき、さらに充実するために、協議会を構成する11市町村が合併を行い、「ハート(心と中心部)」を重視したまちづくりを進めていきます。

すなわち、「ハート」の「心」が意味する、「智慧」と勇気を発揮し、「心」から生み出される安心・安全、人づくり、文化、環境、情報、交流・対話、産業・労働を大切にし、さらには「ハート」の「中心部」の意味する、この圏域の日本と三重県のまん中に位置する利点を十分活かした、心の通い合う、県都・30万人の中核都市になることを目指します。

(2) まちづくりの基本的な考え方

11市町村の圏域は、共通の歴史・文化・豊かな自然を有し、通勤、通学、通院、買物などの生活圏として、また、ごみや消防などの業務を共通で行う広域行政圏としても一体感のある地域です。

この地域において、住民相互の心が通い合い、住民の個性、地域の特性・伝統・文化などの個性が輝き、それぞれの住民、地域がお互いにその個性を尊重して、共有のものと認識し、地域同士の活発な交流が行われる、11市町村が一体となったまちづくりを進めていきます。

(3) まちづくりのあり方

まちづくりの基本理念のもと、まちづくりは、自立した責任ある住民自らが主役となり、行政、NPO、企業などとの連携を図りながら、住民の能力・感性や地域の個性を活かしたまちを作っていくという「住民・手づくりのまちづくり」を行っていきます。

また、行政は、財政基盤の確立を図り、情報を積極的に公開・提供し、新市の中央部と周辺部で格差の生じないまちづくりを進め、合併によりまちが大きくなっても地域の住民の声を、きめ細かく、迅速、公平に把握できるようにし、住民が自立してまちづくりに取り組むことができる住民自治のシステムを構築するとともに、職員の専門能力を高め、政策立案能力の向上を図り、充実したサービスを提供していきます。

(4) まちづくりの基本的な方向

住民、地域、NPO、企業、行政などが協働・連携しながら、次の7つの基本的な方向にそって、合併後の新しいまちづくりを進めていきます。

安心と安全のまちづくり

福祉、保健、医療などのサービスの向上と安定的な提供

災害の発生を防止するまちづくり

住民誰もが、安心、安全に暮らせる障害のない(バリアフリー)まちづくり

人づくり先進市を目指すまちづくり

豊かな自然、特色ある文化・歴史などに触れた豊かな心を育む教育の推進

三重大学、三重県立看護大学、三重短期大学、高田短期大学の連携による人材育成

国際化や情報化などに対応した、創造性豊かで、たくましく未来を開拓できる人材、世界に誇れる人材の育成

文化を育むまちづくり

文化の香り高い、潤いのある生活を送るための文化・レクリエーションの振興

環境に配慮したまちづくり

豊かな自然の11市町村圏域が一体となった保全

自然と調和した循環型社会づくりのための生活環境の保全、省エネルギーと新エネルギー利用の促進、ごみの減量化とリサイクルの推進

住民の快適な生活を実現するための公園、下水道等の環境基盤の整備

景観に配慮したまちづくり

情報感度の高いまちづくり

既存の情報ネットワークの活用も視野に入れた、各種サービスの情報化の推進

地域内の交流・対話を大切にするまちづくり

各地域間の活発な交流を促進するための、交通アクセス、交流・対話の核となる拠点づくりと各地域を循環する交通基盤の整備

住民の一体感を高めるための交流・対話の機会の創出

皆が生き生きと働けるまちづくり

地域の特色、資源、人材を活かした、意欲のある事業者の産業活動への支援

若者などが地域に定着できる活力のあるまちづくり

<まちづくりのあり方・基本的な方向概念図>

